日本の〈差別〉を丸ごと見つめて学び、ほぐす、
いまだかつてないドキュメンタリー映画

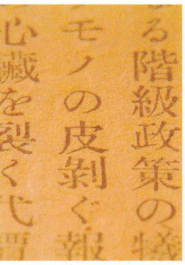
私のはなし 部落のはなし

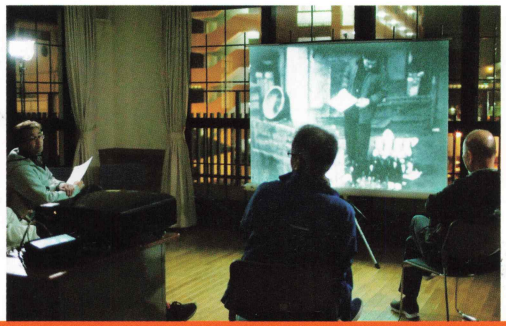
監督 満若勇咲　プロデューサー 大島新

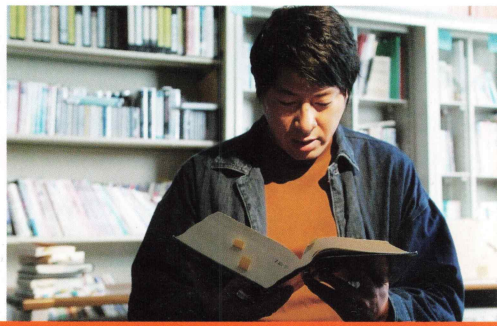
撮影＝辻智彦　編集＝前嶌健治　整音＝高木創　音楽＝MONO　語り・テキスト制作＝釆奈菜子　配給＝東風

2022年｜205分｜日本｜ドキュメンタリー　©「私のはなし 部落のはなし」製作委員会

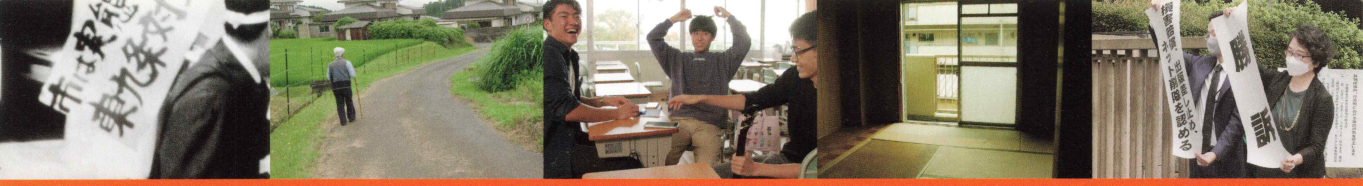
※差別の現実を伝えるために、本作の一部には差別的な表現が含まれています。







buraku-hanashi.jp



「部落差別」は、いかにしてはじまったのか——なぜ私たちは、いまもそれを克服できずにいるのか？

かつて日本には穢多・非人などと呼ばれる賤民が存在した。1871年（明治4年）の「解放令」によって賤民身分が廃止されて以降、かれらが集団的に住んでいた地域は「部落」と呼ばれるようになり、差別構造は残存した。**現在、法律や制度のうえで「部落」や「部落民」というものは存在しない。しかし、いまなお少なからぬ日本人が根強い差別意識を抱えている。なぜ、ありえないはずのものが、ありつづけるのか？ この差別は、いかにしてはじまったのか？** 本作は、その起源と変遷から近年の「鳥取ループ裁判」まで、堆積した差別の歴史と複雑に絡み合ったコンテクストを多彩なアプローチでときほぐし、見えづらい差別の構造を鮮やかに描きだす。

監督は、屠場（とじょう）とそこで働く人々を写した『にくのひと』（2007年）が各地で上映され好評を博すも、劇場公開を断念せざるをえなかった経験を持つ満若勇咲。あれから十数年、プロデューサーに『なぜ君は総理大臣になれないのか』『香川1区』の大島新、音楽に世界を舞台に活動をつづけるMONOを迎え、文字通り〈空前絶後〉のドキュメンタリー映画をつくりあげた。

被差別部落は、なぜ残ったのか。中世から現代に至るまでの共同体の歴史をたどりつつ、さまざまな立場の人びとが、自分と部落を語った傑作ドキュメンタリー。

角岡伸彦 フリーライター

具体性がないまま膨らみ、実態を確認せずに強い拒否反応だけが生まれる。それは、今、この社会のあちこちで起きていることではないか。歴史を知ると、強烈な問いが現在の自分に向けられる。

武田砂鉄 ライター

＊本編3時間25分（途中休憩あり）　@buraku_hanashi　fb.com/buraku.hanashi　buraku-hanashi.jp

5/21（土）より 圧巻のロードショー

全国共通特別鑑賞券¥2,000（税込）［当日一般¥2,500（税込）のところ］

渋谷・文化村前交差点左折

ユーロスペース
EUROSPACE
03-3461-0211 eurospace.co.jp